

令和4年度ゼロカーボン研究会の概要と 第1回研究テーマの説明

事務局
(備前グリーンエネルギー株式会社)

令和4年度ゼロカーボン研究会の概要

【目的】

2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを実現するため、岡山連携中枢都市圏、周辺自治体、事業者及び大学等と「ゼロカーボン社会」実現のための情報交換を行い、今後の具体的な取組を創出すること。

【方針】

- ①ゼロカーボン社会実現に向けた対策は全ての部門に対し、あらゆるアプローチで実施することが必要
 - 各部門のCO₂削減を偏りなく進められるテーマ・内容を研究
- ②研究だけに留まることなく具体的な事業等の創出を目指す
 - 事業創出に向けたゼロカーボン分科会を開催し、詳細内容を打合せ
 - 先進的取組みを行っている事業者（講師）を多く招き、事業等創出につながる研究内容とする
 - 事業実施時のプレイヤーとなる地元や近隣地域の事業者（講師）へご意見を伺い、具体的な事業等を検討する

令和4年度ゼロカーボン研究会の概要

【開催回数・時期】

今年度は合計5回のゼロカーボン研究会を開催予定
(5月、7月、9月、11月、1月)

【参加者】

産：民間企業（各回テーマに関連する企業へ参加依頼）

学：岡山大学

官：岡山連携中枢都市圏、倉敷市

第1回研究テーマ『家庭部門の脱炭素化』の説明

【家庭部門の脱炭素化の現状と課題】

- ・ 2018年度の岡山県 家庭部門のCO₂排出量は全体の7%
- ・ しかしながら、世帯当たりのエネルギー消費原単位は高止まり

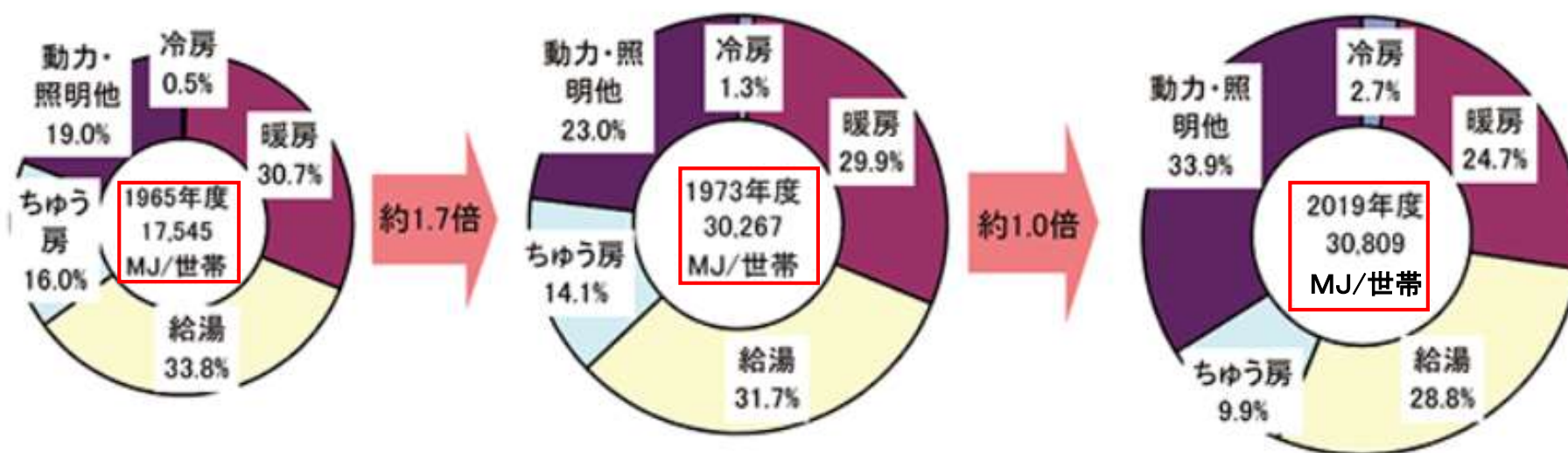


図1. 世帯当たりのエネルギー消費原単位と用途別エネルギー消費の推移

出典：エネルギー白書2021

第1回研究テーマ『家庭部門の脱炭素化』の説明

- 家庭部門のエネルギー消費はエネルギー消費機器の保有状況・効率、省エネルギー行動などに左右される
- ルームエアコンなど保有台数が増加しているものの、エネルギー効率が下げ止まっている機器があり、**今後は既存機器の高効率機器への置換え、エネルギー源の置換え、エネルギー消費機器を上手に使いこなすことが重要**

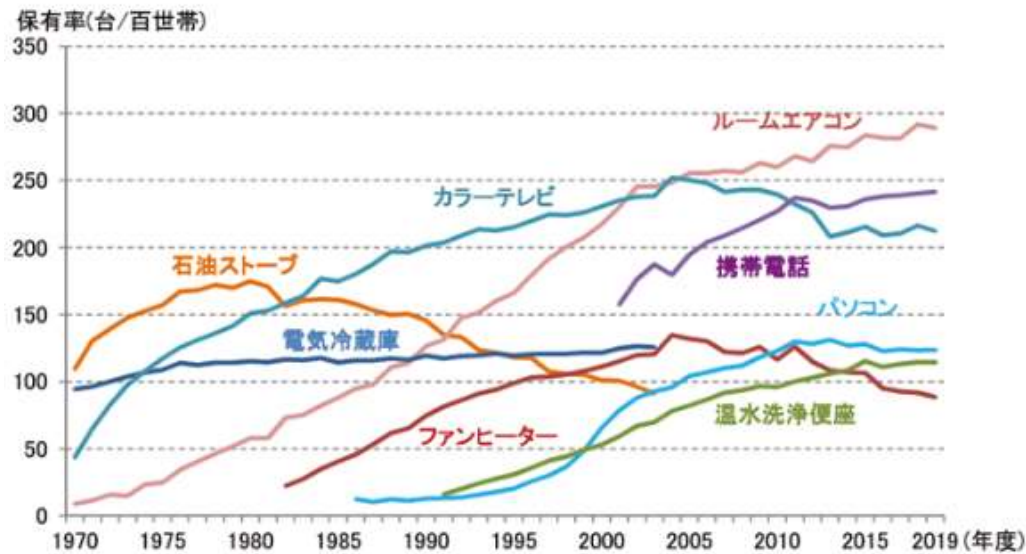


図2. 家庭用エネルギー消費機器の保有状況

出典：エネルギー白書2021

(注) カラーテレビのうち、ブラウン管テレビは2012年度調査で終了。

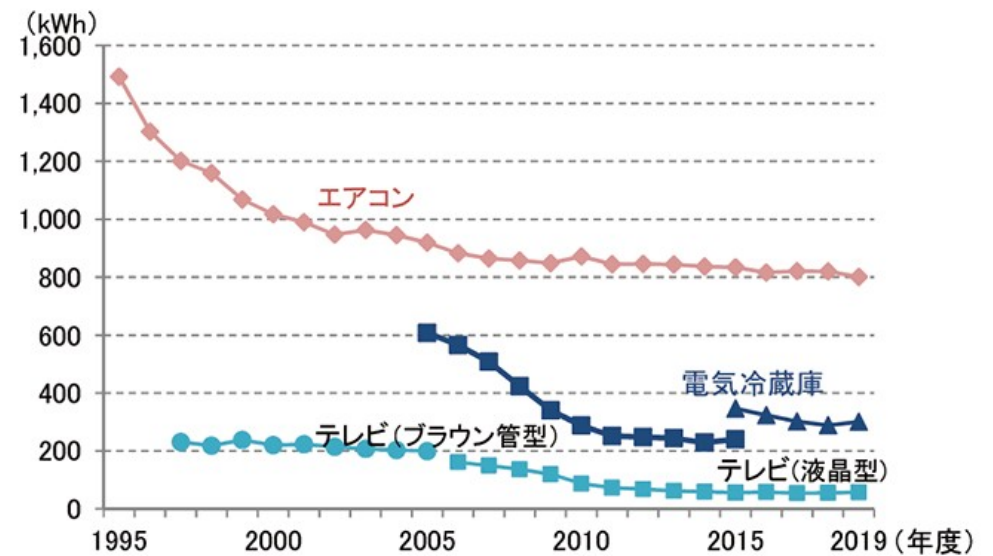


図3. 主要家電製品のエネルギー効率の変化

出典：エネルギー白書2021

(注1) エアコンは冷房・暖房期間中の電力消費量。冷暖房兼用・壁掛け型・冷房能力2.8kWクラス・省エネルギー型の代表機種の単純平均値。

(注2) 電気冷蔵庫は年間消費電力量。定格内容積400lとする場合。定格内容積当たりの年間消費電力量は主力製品(定格内容積401～450l)の単純平均値を使用。2015年度以降JIS規格が改訂されている。

(注3) テレビは年間電力消費量。ワイド32型のカatalog値の単純平均値。

第1回研究テーマ『家庭部門の脱炭素化』の説明

【講演の観点】

- ・ 住民の脱炭素化に向けた行動変容
- ・ 住宅の省エネ化
- ・ エネルギー転換

本日の講演内容

内容	講師
(1) ナッジ理論を取り入れた省エネ教育プログラム	株式会社住環境計画研究所
(2) 岡山での新築ZEH、改修ZEHの導入事例と今後の普及に向けて	株式会社近藤建設興業
(3) 太陽熱温水器の最新動向	株式会社寺田鉄工所